

イヌサフラン食中毒に注意を！死亡者が出ています

◎イヌサフランは死者を出す植物性自然毒食中毒の一つ

2018年7月12日、北海道の帯広保健所管内に住む80代の女性が、自宅に生えていた有毒なイヌサフランの球根をイモと間違えて食べ、死亡したという事件発生しました。司法解剖の結果、有毒成分コルヒチンを検出。自宅の敷地にはイヌサフランが生えており、保健所はイヌサフランによる食中毒と断定しました。



イヌサフラン



ギョウジャニンニク

写真は札幌市から

◎イヌサフランとは

生育地はヨーロッパ中南部～北アフリカ原産の球根植物で、日本には明治時代に渡来し、園芸植物として広く植えられようになりました。

イヌサフランは、ユリ科イヌサフラン属の多年生の球根植物です。根は径3～5cmの卵形で、9月から10月に花茎を15cmほど伸ばし、アヤメ科のサフランに似た花をつけますが、サフランはアヤメ科で、全く異なる植物です。

室内に放置した球根からも開花します。翌春に 20 ～ 30cm ほどの葉を根生し、耐寒性が強く、何年も植えたままで開花します。

<イヌサフラン食中毒>

イヌサフランの有毒物質は、球根や種子に含まれる**コルヒチン (colchicine)**です。鎮痛薬として使用されますが、嘔吐、下痢、皮膚の知覚減退、呼吸困難などの作用を示し、重症の場合は死亡することもあります。ヒトの最小致死量は体重 50 kg の場合、コルヒチンとして 4.3 mg 程度です。

<間違えやすい植物>

ニンニクやタマネギ、ジャガイモとの誤食は、主に**球根が出回る秋**に起こります。葉は開花後に出るため、ギョウジャニンニクやギボウシ、**山菜などとの誤食**が主に春に起こります。

<予防方法>

球根は、子供や認知障害のある人の手の届くところや、台所には置かないようにします。イヌサフランなど観賞用の花壇と家庭菜園とは別につくり、一緒に植えないようにします。また、食用と正確に判断できない植物は食べないようにします。



イヌサフランの外観(タマネギ似)



イヌサフランの切り口(ジャガイモ似)写真新潟市のHPより



イヌサフランの球根(有毒)厚生労働省のHPより

<イヌサフランによる死亡例>

2011年から2017年までの食中毒で死亡者を出した食中毒事例を表にまとめてみました。2014年以降に限ると死者が出た事例の17件のうち7件はイヌサフランと思

われるものです。2015年6月11日の北海道札幌市の事例では原因食品病因物質とも不明となっていますが、患者からはコルヒチンが検出されており、イヌサフランが疑われます。

表：死者が出た食中毒事例(2011-2017年)

発生年	発生日	発生場所	原因食品	病因物質	原因施設	摂食者数	患者数	死者数
2017	2月19日	東京都	蜂蜜	ボツリヌス菌	家庭	1	1	1
2017	5月11日	北海道	イヌサフラン	植物性自然毒	家庭	3	3	1
2017	8月13日	群馬県	調理・販売された食品	腸管出血性大腸菌	飲食店	40	11	1
2016	4月21日	北海道	イヌサフラン(推定)	植物性自然毒	家庭	2	2	1
2016	4月23日	秋田県	トリカブト	植物性自然毒	家庭	1	1	1
2016	5月15日	宮城県	イヌサフラン	植物性自然毒	家庭	1	1	1
2016	5月29日	北海道	スイセン	植物性自然毒	家庭	1	1	1
2016	8月25日	千葉県	きゅうりのゆかり和え	腸管出血性大腸菌	老人ホーム	99	44	4
2016	8月27日	千葉県	きゅうりのゆかり和え	腸管出血性大腸菌	老人ホーム	26	8	1
2016	8月27日	東京都	きゅうりのゆかり和え	腸管出血性大腸菌	老人ホーム	94	32	5
2015	2月16日	宮城県	アオブダイ	動物性自然毒	家庭	1	1	1
2015	3月28日	国内不明	ふぐ(内臓)(推定)	動物性自然毒	不明	3	1	1
2015	6月11日	北海道	不明	その他(コルヒチン)	家庭	2	2	2
2015	6月21日	北海道	イヌサフラン(推定)	植物性自然毒	家庭	1	1	1
2015	9月22日	山形県	生のイヌサフラン(推定)	植物性自然毒	家庭	1	1	1
2014	9月5日	静岡県	野草(イヌサフラン)	植物性自然毒	家庭	1	1	1
2014	9月24日	兵庫県	ふぐ	動物性自然毒	家庭	1	1	1
2013	10月5日	熊本県	キノコ調理品	植物性自然毒	家庭	1	1	1
2012	3月20日	長崎県	アオブダイ(推定)	動物性自然毒	家庭	6	3	1
2012	4月7日	北海道	トリカブトのおひたし	植物性自然毒	家庭	3	3	2
2012	8月2日	北海道	漬物(白菜きりづけ)	腸管出血性大腸菌	製造所	不明	169	8
2011	1月1日	沖縄県	昆布の煮物	サルモネラ属菌	家庭	11	11	1
2011	1月7日	愛媛県	フグ	動物性自然毒	飲食店	4	3	1
2011	4月19日	富山県	ユッケ	腸管出血性大腸菌	飲食店	不明	181	5
2011	5月2日	山形県	団子及び柏餅(推定)	腸管出血性大腸菌	製造所	491	287	1
2011	8月1日	千葉県	サンドウィッチ及びロール	腸管出血性大腸菌	老人ホーム	63	14	1
2011	8月6日	宮城県	生卵入りオクラ納豆	サルモネラ属菌	家庭	4	3	1
2011	11月23日	沖縄県	不明	サルモネラ属菌	家庭	3	3	1

厚生労働省食中毒統計より

◎過去の事例より

(症例1)

2007年4月12日、新潟県内で50代の男性がギョウジャニンニクと一緒に誤ってイヌサフランを採取し、13日21時30分頃、「炒め物」と「お浸し」にして妻と2人で食べたところ、14日0時頃から下痢・嘔吐・腹痛等の食中毒症状を呈し、夫はその後血圧低下・多臓器不全により死亡しました。妻は回復しています。診察した医師から、患者本人が死亡する前に凶鑑で確認したこと、医師がイヌサフランによる食中毒と診断したことから、イヌサフランによる食中毒と断定しました。(2007年 新潟県報道資料)

(症例2)

2013年6月3日、石川県白山市内で女性(71)が自宅横の畑でイヌサフランを採取し、ジャガイモと似ていることから食用にできると思い、球根をスライスして、ゆでて食べたところ、おう吐の症状が出ました。近所の知人女性(77)も一切れ食べましたが二人とも軽症で、回復しました。

（症例 3）

2013 年 6 月 23 日、札幌市内で女性（60 代）が姉の自宅の庭に生えていたイヌサフランの球根を、ミョウガと間違えてゆでて食べ、腹痛や嘔吐など食中毒の症状を訴えて病院に搬送されました。一緒に食べた姉はすぐに吐き出したため、体調に異常はありませんでした。食べた残りを北海道立衛生研究所で鑑定したところ、イヌサフランと確認されました。（死者無し）

（症例 4）

2015 年 6 月 21 日、北海道札幌市内で男性が家庭菜園で採取したイヌサフランの球根を茹でて食べたところ、下痢、嘔吐及び多臓器不全等の症状を呈し、その後死亡しました。

（症例 5）

2015 年 9 月 22 日、山形県山形市内で女性が自宅の庭に生えていたイヌサフランの地上部をもぎ取り、そのままの状態を食べた後、下痢、嘔気、嘔吐の症状を呈し、その後死亡しました。

（症例 6）

北海道の富良野保健所は 15 日、同保健所管内（富良野市など 5 市町村）の 80 代女性と 70 代男女の計 3 人が有毒のイヌサフランを、ギョウジャニンニクと誤って食べて食中毒になり、このうち 80 代女性が 13 日に死亡したと発表しました。

同保健所によると、3 人は母親と娘夫婦。11 日午後 5 時半ごろ、知人宅敷地内で採ったイヌサフランの葉を自宅に持ち帰り、炒めて食べました。その後、下痢と嘔吐（おうと）を発症し 12 日午前、医療機関に搬送されました。

母親は 13 日午後 3 時 25 分ごろ、容体が悪化して死亡しました。娘夫婦は今も入院しています。保健所は、症状などがイヌサフランに含まれる有毒成分コルヒチンによるものと一致したため、イヌサフランによる食中毒と断定しました。（北海道新聞 2017 年 5 月 16 日付）

（症例 7）

2018 年 4 月 22 日、北海道空知地方に住む 70 代の夫と 60 代の妻が自宅敷地内に生えていたギョウジャニンニクとイヌサフランをジンギスカンの具材として調理して食し、夫が 2 日後に死亡。妻も発症したが回復しています。

●植物性自然毒食中毒ではイヌサフランの他、スイセンやトリカブトなどで発生しています。食用と正確に判断できない植物は食べないようにします。

参考資料：厚生労働省HP食中毒統計その他、新潟市HPイヌサフランに注意しましょう

文責 食の安全と公衆衛生 主宰 食品衛生アドバイザー
笹井 勉（元墨田区食品衛生監視員）